

山形大学 IR 担当者向け実践プログラム自己点検・評価 議事次第

開催日時： 2023 年 11 月 17 日（金） 10：00～12：00

開催場所： 山形大学小白川キャンパス法人本部 3 階第 1 会議室

○議題：

1. 自己点検・評価の実施について
2. IR 担当者向け実践プログラム第 5 期における実施結果について
3. 第 5 期修了生インタビュー実施報告について
4. プログラムの現状と課題について
5. その他

○配布資料

資料 1 委員名簿

資料 2 山形大学 IR(Institutional Research)担当者向け実践プログラム運営
規程

資料 3 これまでの開講実績

資料 4 山形大学 IR 担当者向け実践プログラム第 5 期における実施結果に
ついて

資料 5 IR 担当者向け実践プログラム第 5 期修了生インタビュー実施報告

資料 1

委員名簿

種別	氏名	所属	部署	役職
学外	小湊 卓夫	九州大学	基幹教育院	准教授
学外	関 泉	東北文化学園大学	IR 室	室長
学外	岸根 大輔	宮城大学	事務局総務課	主査
学外	田中 秀典	宮崎大学	農学部畜産草地科学科	教授
学外	山本 幸一	明治大学	研究推進部研究知財事務室	副参事
2号委員	藤原 宏司	山形大学	教育推進機構	教授
1号委員	浅野 茂	山形大学	教育推進機構	教授

山形大学 IR(Institutional Research)担当者向け実践プログラム運営規程

(趣旨)

第 1 条 この規程は、山形大学 IR(Institutional Research)担当者向け実践プログラム(以下「IR 実践プログラム」という。)の運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(実施体制)

第 2 条 IR 実践プログラムは、山形大学教育推進機構教育企画・教学マネジメント部門(以下「教学マネジメント部門」という。)において実施する。

2 IR 実践プログラムの担当教員は、教学マネジメント部門の業務を行う教員とする。

(運営委員会)

第 3 条 IR 実践プログラムの運営等について審議するため、山形大学 IR 担当者向け実践プログラム運営委員会(以下「運営委員会」という。)を設置し、次の各号の委員をもって組織する。

- (1) 教育推進機構教育企画・教学マネジメント部門長
- (2) IR 実践プログラム担当教員
- (3) エンロールメント・マネジメント部長
- (4) その他運営委員会委員長が必要と認めた者

2 前項第 4 号に掲げる委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第 4 条 運営委員会に委員長を置き、前条第 1 項第 1 号の委員をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を招集する。
- 3 委員長は、前条第 1 項の委員の中から副委員長を指名する。
- 4 委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代行する。

(運営委員会の審議事項)

第 5 条 運営委員会は、次に掲げる事項について審議を行う。

- (1) IR 実践プログラムの企画、運営に関する事項
- (2) IR 実践プログラムの講師採用に関する事項
- (3) IR 実践プログラムの受講者確定に関する事項
- (4) IR 実践プログラムの修了認定に関する事項
- (5) IR 実践プログラムの自己点検・評価の実施と外部委員の意見の反映に関する事項
- (6) その他運営委員会が必要と定める事項

(会議の議事)

第6条 運営委員会は、委員総数の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。

2 運営委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 運営委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(自己点検・評価の実施)

第8条 運営委員会は、IR実践プログラム自己点検・評価委員会(以下「自己点検・評価委員会」という。)を設置し、国立大学法人山形大学における内部質保証に関する規程第10条及び内部質保証を推進するための指針を踏まえ、各期のIR実践プログラム終了後に自己点検・評価を行う。

2 自己点検・評価委員会は、次の各号の委員をもって組織する。

(1) 第3条第1項第1号、第2号及び第4号に掲げる委員

(2) 自己点検・評価に関する専門的知識又は学識経験を有する学外有識者 若干人

(3) その他自己点検・評価委員会が必要と認めた者 若干人

3 前項第2号の委員は、自己点検・評価委員会を構成する委員数の過半数を超えるものとし、外部有識者としてIR実践プログラムに対する助言等を行うものとする。

(事務)

第9条 IR実践プログラムに関する事務は、エンロールメント・マネジメント部において遂行する。

(その他)

第10条 この規程に定めるもののほか、IR実践プログラムに関し必要な事項は、教育推進機構長が別に定める。

附則

1 この規程は、令和5年4月1日から施行する。

2 この規程施行後、最初に選出される運営委員会委員の任期は、第3条第2項の規定にかかわらず、令和6年3月31日までとする。

資料 3

これまでの開講実績

開講期	日程	履修者数	修了者数
第 1 期	2020 年 5 月～2020 年 10 月	11	11
第 2 期	2020 年 11 月～2021 年 3 月	8	8
第 3 期	2021 年 5 月～2021 年 9 月	15	15
第 4 期	2022 年 4 月～2022 年 9 月	8	8
第 5 期	2023 年 5 月～2023 年 10 月	10	9

山形大学 IR 担当者向け実践プログラム第 5 期における実施結果について

藤原宏司
プログラムディレクター・主担当講師

1. 実施課程： IR (Institutional Research) 担当者向け実践プログラム

※ 本プログラムは、学校教育法に基づく履修証明プログラムであり、文部科学省より職業実践力育成プログラム (BP) としての認定を受けています。

2. 実施日程： 2023 年 5 月～2023 年 10 月

3. 受講者数： 10 名

4. 修了者数： 9 名

5. 担当講師： 8 名 (外部講師 6 名、学内講師 2 名)

外部講師： 荒木俊博 (淑徳大学)、岸根大輔 (宮城大学)、北原香織 (鶴見大学)、
関泉 (東北文化学園大学)、田中秀典 (宮崎大学)、山本幸一 (明治大学)

学内講師： 浅野茂 (山形大学)、藤原宏司 (山形大学)

※ 敬称略・五十音順

6. 実施形態： オンライン授業

※ オンデマンド型の講義動画と計 7 回のリアルタイムオンライン授業 (月に約 1 回)

※ LMS として、Microsoft Teams を使用し、リアルタイムオンライン授業は Zoom で実施

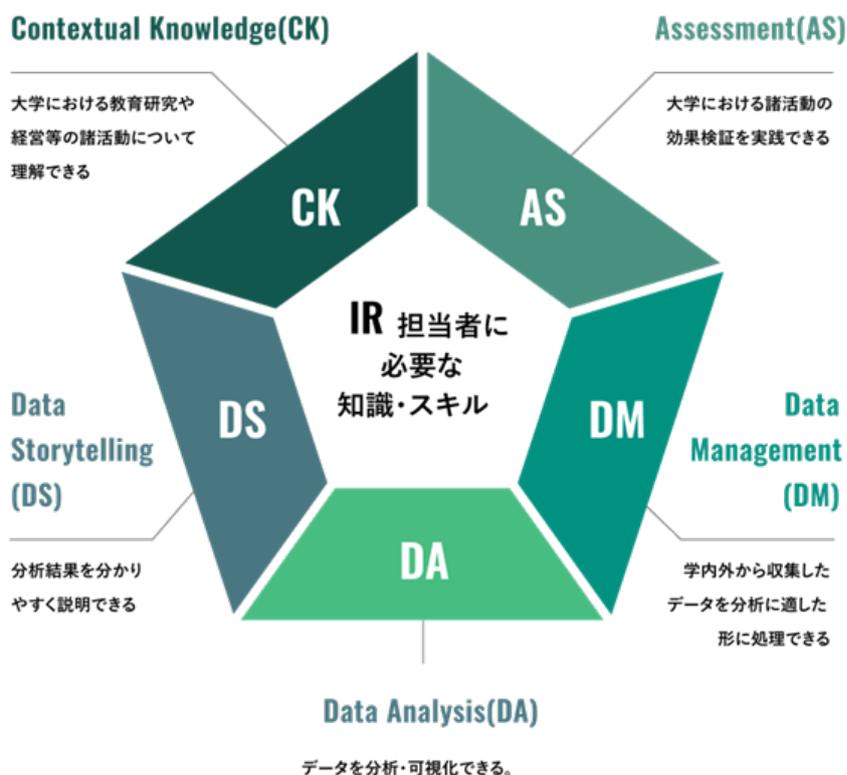
※ Microsoft Teams の運用、「講義・課題リスト」の作成および「授業進行管理」は、
藤原が担当

※ Zoom の運用は、浅野が担当

7. 評価体制

「中間インタビュー」、「修了者インタビュー」、「外部評価結果」をベースに自己点検・評価を行い、来期以降の改善に活用しています。(修了者インタビューの結果は、別紙の方にまとめています。)

8. 本プログラムの学習目標 (図1)



9. 第5期提供科目一覧

科目分野	科目コード	コース番号	科目名	学習する知識・スキル (図1参照)				
				CK	AS	DM	DA	DS
IR 入門	IR	101	IR 入門	○	○			
IR 応用	IR	151	IR の発展過程	○				
	IR	171	明治大学における IR	○	○			
	IR	205	公立大学における IR	○				
	IR	211	IE とデータ活用		○			
データマネジメント&分析 (DMA)	DMA	101	DMA 入門			○		
	DMA	102	R による データマネジメント入門			○		
	DMA	103	データ分析・可視化入門				○	
	DMA	104	レポーティング入門					○
IR 実践	IR	191	IR プロジェクト (1)			○	○	○
	IR	192	IR プロジェクト (2)			○	○	○
ゲスト講演・その他	IR	175	他大学における IR	○	○			
	IR	199	次のステージへ向けて			○	○	

注：「○」は、その科目の学習目標の中に、図1に該当する知識・スキルの修得が含まれていることを意味します。

10. 第5期における講義内容：

講義タイトル	主担当者
DMA101_01_Rを勉強するメリット	藤原
DMA101_02_Rのインストール	藤原
DMA101_03_RStudio Desktopのインストール	藤原
DMA101_04_Rtoolsのインストール	藤原
DMA101_05_Tidyverseのインストール	藤原
DMA102_01_RStudioの使い方&パッケージのインストール	藤原
DMA102_02_データファイルの読み込み、列の操作、ファイルへ出力	藤原
DMA102_03_パイプ、アサインメント、重複処理	藤原
DMA102_04_Rにおけるデータ型、列の操作 Part 1	藤原
DMA102_05_列の操作 Part 2 (列の抽出と削除、ソート、内容の操作)	藤原
DMA102_06_データ (行) の抽出、集計、グループごとの処理	藤原
DMA102_07_データセットの型 (ワイド型、ロング型、Tidy)	藤原
DMA102_08_ワイド型からロング型への変形、NA 処理	藤原
DMA102_09_ロング型からワイド型への変形	藤原
DMA102_10_集計表の作成	藤原
DMA102_11_データセットの結合	藤原
DMA102_12_文字列の操作 & セキュリティを高めるために	藤原
DMA102_最終課題_Rによるデータマネジメント入門	藤原
DMA103_【課題】Microsoft Formsによるアンケートの作成	山本
DMA103_【講義編】Microsoft Formsによるアンケートの作成	山本
DMA103_01_Power BIのインストール	藤原
DMA103_01_Rによるインタラクティブなデータの可視化	藤原
DMA103_01_講義編_DSBC in Excel	山本
DMA103_02_Power BI レポート作成の基礎	藤原
DMA103_02_課題_DSBC in Excel	山本
DMA103_03_スライサーとレポートタイトルの追加	藤原
DMA103_03_回答_DSBC in Excel	山本
DMA103_04_ヒストグラムの手動作成	藤原
DMA103_05_ビジュアルの追加と箱ひげ図	藤原
DMA103_06_スライサーの追加設定とレポートの公開	藤原
DMA103_グラフの選び方	藤原
DMA104_01_課題_第1回プレゼンテーション発表会	藤原
DMA104_02_プレゼンテーション発表会の分析例	田中

DMA104_02_課題_第2回プレゼンテーション発表会(リベンジ戦)	藤原
DMA104_03_課題_第3回プレゼンテーション発表会(WEB アンケート)	藤原
DMA104_R Quarto によるレポート作成入門 Part1	田中
DMA104_R Quarto によるレポート作成入門 Part2	田中
DMA104_エグゼクティブ・サマリー	藤原
DMA104_エクセルによるプレゼンデータの分析例 01_IR のことを何も知らずに IR 担当になった場合	関
DMA104_エクセルによるプレゼンデータの分析例 02_ピボットテーブル	関
DMA104_エクセルによるプレゼンデータの分析例 03_ピボットグラフ	関
DMA104_エクセルによるプレゼンデータの分析例 04_データを見る様々な視点	関
DMA104_プレゼンテーション発表会#1	全員
DMA104_プレゼンテーション発表会#2 リベンジ戦	全員
DMA104_プレゼンテーション発表会#3 WEB アンケート	全員
DMA104_課題 01_プレゼン発表会#1_発表資料提出	藤原
DMA105_アンケート作成時のポイント	藤原
IR101_01_IR とは何か	藤原
IR101_02_米国における IR オフィスと計画策定&IR 担当者に必要な知識・技術とは何か	藤原
IR101_03_米国大学の基礎知識と IR	藤原
IR101_04_代表的な質問への回答	藤原
IR101_05_米国大学における IR 関連用語	藤原
IR101_IR 入門(導入編)	全員
IR151_01_IR の3つの波	浅野
IR151_02_政策と IR	浅野
IR151_03_IR の現在地	浅野
IR171_01_IR オフィスの役割と日常業務	山本
IR171_02_3つの特色	山本
IR171_03_統合型データベース	山本
IR171_04_データ分析とレポート	山本
IR175_01_宮崎大学における IR	田中
IR175_02_小規模私立大学における IR 実践事例	北原
IR175_03_内部質保証や評価からみた IR の活用と課題	荒木
IR191_IR プロジェクト1 グループワーク	全員
IR191_IR プロジェクト1 講義	藤原
IR192_IR プロジェクト2_最終成果発表会	全員
IR199_次のステージへ向けて Part 1	浅野
IR199_次のステージへ向けて Part 2	藤原

IR205_公立大学における IR・評価の現状について	岸根
IR211_01_大学評価と IR	山本
IR211_02_計画策定と評価	山本
IR211_03_教育効果の評価と IR	山本

※ プレゼンテーション発表会および IR プロジェクト用の共通データセットは、藤原が作成

1 1. 講義時間： 90.67 時間

内訳

講義（含：リアルタイムオンライン授業）	： 73.17 時間
授業内課題（課題提出・プレゼンテーション等の作業時間）	： 11.83 時間
授業内演習（課題提出を伴わない講義動画内演習時間）	： 5.67 時間

※ ガイダンスの時間（1 時間）は含みません。

1 2. 講師別講義時間

担当講師	講義時間
藤原宏司（山形大学）	51.18 時間
山本幸一（明治大学）	7.27 時間
田中秀典（宮崎大学）	4.68 時間
浅野茂（山形大学）	2.96 時間
荒木俊博（淑徳大学）	1.33 時間
北原香織（鶴見大学）	0.92 時間
関泉（東北文化学園大学）	0.85 時間
岸根大輔（宮城大学）	0.39 時間

※ 担当講義における講義時間のみで計算

※ リアルタイムオンライン授業におけるプレゼンテーション発表会（計 21.08 時間）等への参加時間は重複を避けるため計算の対象外としています。

謝辞

外部講師の方々には、担当講義以外にもプレゼンテーション発表会におけるファシリテーションや Microsoft Teams 上でのディスカッション等にご協力、ご参加いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

IR担当者向け実践プログラム第5期修了生インタビュー実施報告

藤原宏司
プログラムディレクター・主担当講師

1. 実施日程：2023年10月30日～2023年11月13日

2. 修了生インタビュー協力者数：6名

※ 希望者を募り、インタビューを実施しました。

参考データ

- ・第5期修了者数：9名
- ・中間インタビュー協力者数：4名

3. インタビュー形式：オンライン（Zoomを使用）

※ 修了者数が少ないため、アンケートでは見えにくい修了者の本プログラムにおける具体的な意見や感想に加えて、来期以降への改善点等を深く理解できるインタビュー形式を採用しました。

4. インタビュー時間：1時間

※ 前半は、最終成果発表会におけるフィードバックを行い、後半にインタビューを行いました。

5. インタビュー実施者：藤原宏司（山形大学）

6. 主な設問項目

- (1) 本プログラムを何で知りましたか？
- (2) 本プログラムの受講動機を教えてください。
- (3) 受講費用について、どう思われますか？
- (4) 受講費用の費用負担について教えてください。
- (5) 休日のオンライン授業参加について、大学から何らかの配慮はありましたか？
- (6) 本プログラムに費やした学習時間を教えてください。
- (7) 本プログラムにおける満足度を教えてください。
- (8) 本プログラムを同僚に勧めたいですか？
- (9) 本プログラムの良かったところや改善点を教えてください。

※ インタビューのまとめ ※

(1) 本プログラムを何で知りましたか？

- ・ 上司・同僚・先生からの紹介
- ・ 他大学・他団体が実施している IR 関連の研修会で知った。
- ・ 検索エンジンでヒットした。

(2) 本プログラムの受講動機を教えてください。

- ・ 上司・同僚・先生から勧められた。
- ・ 第1期の時から受講するタイミングを探していた。
- ・ HP に掲載されている「修了生の声」を読んで、受講しようと思った。
- ・ IR やデータ処理について興味があった。
- ・ 本プログラムの講師から研修会で勧められた。

(3) 受講費用について、どう思われますか？

- ・ 受講前は「高い」と感じていたが、受講後は、講義内容や講義時間に見合った受講料だと感じた。
- ・ 内容として「15万円」の価値はあると思うが、高いと思う。
- ・ 安いとは思わないが、コストパフォーマンスの面からは妥当だと感じた。

(4) 受講費用の費用負担について教えてください。

- ・ 所属大学が支払ってくれた。
- ・ 自分で支払った。
- ・ 所属大学における研修費で賄った。

(5) 休日のオンライン授業参加について、大学から何らかの配慮はありましたか？

- ・ 振替にしてくれる等の配慮があった。
- ・ 課題等に取り組む時間を「業務」として認めてくれた。
- ・ 自腹で受講したため、大学からの配慮は無かった。
- ・ 受講料は大学が支払ってくれたが、振替等は無かった。

(6) 本プログラムに費やした学習時間を教えてください。

- ・ 講義動画を何回も見直す必要があったため、130 時間は学習した。
- ・ 学習量が多いということは覚悟していたが、想像を超えていた。
- ・ 150 時間程度だと思うが、もしかすると、それより多いかもしれない。
- ・ 120 時間位だと思う。

(7) 本プログラムにおける満足度を教えてください。

- ・ とても大変だったが、満足できた。(注：全員が、このような回答でした。)

(8) 本プログラムを同僚に勧めたいですか？

- ・ 大変だと思うが、同僚にも勧めたい。(注：全員が、このような回答でした。)

(9-1) 本プログラムの良かったところを教えてください

- ・ プレゼンテーション発表会の課題データが全員共通なため、他の人の分析や発表方法、発表資料等からヒントを得ることができたり、自分の発表と比較することができたりした。
- ・ プレゼンテーション発表会の課題データが繰り返し使われていくため、自分の発表や分析内容が改善されていくのを実感できた。
- ・ アメリカの大学における IR や人事制度、経営方法等について詳しく学ぶことができた。
- ・ 講義系の授業と「R」や「Power BI」等について学ぶ実技系の授業のバランスが良かった。
- ・ 質問等に対して、講師陣が丁寧にコメント・回答してくれた。
- ・ 毎週月曜日に、「提出課題」に関するリマインドがあり、それが学習のモチベーションになった。(遅れに対する危機感を感じたのもある。)
- ・ GPA が直接指標ではなく間接指標であるというのは良い気付きになった。
- ・ 「R」を実務である程度使えるレベルまで教えてくれたのが良かった。(既に実務で使っているそうです。)

(9-2) 本プログラムの改善点について教えてください

- ・ 本当に大変なプログラムだったため、ガイダンスの段階で、プログラム全体のスケジュール感について詳細に説明した方が良かったと思う。
- ・ 「IR 入門」が終わってから「R」等の実技系の授業が始まるが、「R」や「Power BI」系の授業は繰り返し講義動画を見る必要があるため、早め(同時)にスタートしても良いと思う。
- ・ 受講生同士のコミュニケーションの機会を後半(IR191)ではなく、前半に設けてほしかった。
- ・ 「R」を使った表の作り方について扱ってほしい。

- ・ 担当講師により、授業の進め方（スピード）が大きく異なるのが気になった。
- ・ 公表されているスケジュール通りに講義動画が出ない場合は、何らかのアナウンスが必要だと思う。
- ・ 自腹で受講料を支払っての参加だったので、厚生労働省による助成の対象プログラムに早くなってほしい。
- ・ 面談（インタビュー）から多くのアドバイスを貰えたので、面談を必修化するなどの検討が必要だと思った。
- ・ 「Rによるレポート作成」について、とても役に立つトピックだと思うが、最終成果発表会と重なったため、取り組む時間があまり取れなかった。（早めに扱ってほしい。）
- ・ 「Power BI」と「Quarto」をどう使い分けるか、詳しい説明がほしかった。
- ・ IR 大学という架空の大学でのお話というシナリオであれば、受講生も、そのシナリオに沿って発表した方が良いと思う。
- ・ Microsoft Teams のコミュニケーションチャンネルを活用するよう言われていたが、コメントしてくれる講師がいつも同じなので、受講生だけではなく、他の講師陣の参加も必要だと思う。
- ・ コミュニケーションチャンネルで質問をしたが回答がなかったので、以降、書き込むのに躊躇してしまった。
- ・ 最後のリアルタイム授業では、講義ではなく、受講生同士、受講生と講師陣等のグループワークでも良かったと思う。
- ・ プレゼンテーション用のテンプレートがあっても良かったと思う。

特別聴講生からのリクエスト

- ・ ほとんどの講義動画を毎回新しく作り直されているとのことだが、過去期と全く同じ講義動画を公開する場合は、そのことをアナウンスしてほしい。（全てを新規作成する必要は無いけども、既に自分が見たことのある動画なのかは教えてもらえると助かります。）